

## 1. 舞台技術の分野

舞台技術とは、「舞台照明」「舞台音響」「舞台操作」など、舞台上での演出のため劇場の設備や機器などを扱う分野のことをいう。

また大道具や小道具などの計画から製作を行う分野は、「舞台美術」と呼ばれ、舞台機構や舞台操作と深く関わる分野であり、舞台技術の分野に含まれる。

他に、演出を行う上で必要な分野として、小道具、衣裳、メイクなどもあり舞台技術分野に含まれるが、劇場やホールでは、施設に固定した設備や機器を使用する「舞台照明」「舞台音響」「舞台操作」を舞台技術分野ということが我が国では一般的である。

ただし、我が国の舞台技術に関する様々なシステムや一般的に行われている習慣の中には、欧米と異なる点が少なくないことに留意する必要がある。

演出に必要な舞台技術分野の一連の作業は、「デザイン」「製作」「仕込み」「操作」「バラシ」という段階に分けて考えることができる。

デザインとは、演出の意図を実現するため、設備や機材をどのように利用するか、どのような大道具や小道具などを使用するか等の計画を行うことであり、プランニングとも呼ばれる。この役割を担当するスタッフを特に「デザイナー」「プランナー」といい、狭い意味での舞台技術スタッフには含まずに、演出スタッフとして扱われることが多い。

製作段階では、デザインに従って、大道具・小道具の製作や、利用する劇場の設備や機器の利用方法の計画、また必要な機材や設備の調達を行う。

なお、舞台作品自体の準備の予算や進行状況の管理や、券売、広報などの上演準備に必要な一連の業務を「制作」といい、大道具や小道具など上演に必要な具体的な物品を実際に作ることを「製作」といって使い分けることが一般的であるが、厳密な定義ではない。

仕込みは、セッティングともいい、劇場において設備や機器、大道具・小道具を配置し、配線等の準備を行うことである。

操作は、舞台の進行に従い、設備や機器を操作することであり、オペレーションとも呼ばれる。

バラシは、仕込みと概ね逆の手順で行われる終演後の片づけである。

上演時にスタッフ間の連絡に使われるインカムや、舞台の進行状況を楽屋等に伝えるモニター等、舞台上の進行を円滑に行うための通信系の機器がある。これらの通信系の機器は、演出のための機器と一体的に音響部門が管理し、運用することが多い。

舞台の準備や、迫り、スライディングステージ等の舞台機構も、演出のために使用される舞台機構と一体的に、舞台操作分野が管理する。

舞台作品の制作過程では、これら舞台技術各分野の調整を行い、上演段階では、その準備から仕込み、各分野の操作のタイミング、さらに終演後の片づけまで、一連の舞台での進行を管理する「舞台監督」という役割がある。

舞台監督は、制作や上演全般に関わる役割であり、特に舞台技術各分野に対する知識が必要であり、一般的には舞台技術分野に含み、舞台操作とともに「舞台」分野という呼び方をされることが多い。

表-2 舞台技術分野

分野	原簿	デザイン	製作(制作)	仕込み	操作	バラシ
舞台照明		舞台照明のプランニング	機材等の準備	照明機材等のセッティング	照明機材の操作	照明機材等を元の状態に戻す
舞台音響		舞台音響のプランニング	ソースの作成 機材等の調達	音響機材等のセッティング 連絡設備の準備	音響機材の操作 連絡設備の管理	音響機材等を元の状態に戻す
舞台操作				舞台美術、舞台機構等のセッティング 仕込みに使用する機構の操作	舞台美術、舞台機構等の操作	舞台美術の解体、舞台機構等を操作し、最終的に元の状態に戻す
舞台美術		舞台美術デザイン	舞台美術の作成			
舞台監督		各分野の調整	各分野の調整、進行管理	作業全体の管理、調整	舞台進行、各分野の操作の管理	作業全体の管理調整等

以上は、演劇などにおける舞台技術各分野の基本的な役割である。公立ホールでは、利用用途が多岐に渡り、講演、会議、映写会なども行われる。そのため、同時通訳設備や映写設備などが使われる機会もあり、公立ホールの舞台技術部門では、舞台照明、舞台音響、舞台機構以外に、これらの設備に関わることがある。